

環境創造型農業を推進し 地域の農業と自然環境を守っていく

あぶがわけんりゅうほぜんかい
山口県：阿武川源流保全会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

農業と自然環境の共生

【経緯】

当団体は、地域活動していた嘉年ゆめ倶楽部、ほ場整備で生態系保全施設の設置の協議調整を行っていた阿東町土地改良区、生きもの調査等環境学習に取り組んでいた嘉年小学校を含む嘉年地区を中心に平成19年8月設立され、地区の環境保全活動や環境創造型農業等を推進するための活動を実施している。



親水型ビオトープ

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】幹線排水路、ビオトープ 15 箇所（淵型、ため池型）

【活用した事業等】県営嘉年中地区ほ場整備事業

【保全対象生物】爬虫類、両生類、魚類、水生昆虫、水生植物

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 生態系配慮施設や親水公園維持管理
 - ①草刈り・清掃・土砂取除
 - ・主に会員が参加しており、延べ人数は約 100 名で実施（年間 2 回程度）
2. 普及啓発活動
 - ①広報誌発行
 - ・活動の普及啓発として広報誌を年に 2 回ほど発行
3. 県主催の農村と都市部との交流イベントへの参加
 - ①農産物即売、資料展示、スタンプラリー、体験コーナーなど
4. その他
 - ①環境保全型農業の推進
 - ・代かき濁水の排出防止
 - ②チューリップ・彼岸花・ユウスゲの植栽



水路の泥上げ



植栽活動

○継続した活動でこんな効果が！！



清掃活動

■生態系配慮の重要性について地域住民の意識の改革・普及

・子ども達の関心が生きものから地域全体の環境にまで広がっている。さらに、不法投棄が減少している。

■農村と都市部の交流の向上

・農村と都市との交流を図る「ルーラルフェスタ」（県主催）の地域活動への参加を継続して実施している

○課題・苦労した点

■周辺農家の理解を得ること

・保全活動に対する周辺農家の賛同や協力を得ることが難しい

■高齢化等による会員の減少

・保全活動の若い担い手の不足、会員全体的な高齢化

■活動の担い手の継続的確保

・活動に対する担い手の気運を保つことが課題であった。

○工夫した点

■営農負担軽減を考慮した活動の実施

・防草シートの設置など、営農負担軽減を考慮した活動を実施して、周辺農家への理解に努めている。

■構成組織ごとの役割を分担し、明確な目標設定と情報等の共有化

・高齢化や少人数化に対応するため、作業の明確化、効率化に繋げている。

■農村環境保全の普及啓発活動

・活動の担い手の確保や保全活動の普及のために、農村環境保全啓発グッズを作成・配布して啓発を呼びかけている。

○活動の特徴！！

■活動開始当初から様々な団体と連携

・地域活動の団体や、土地改良区、環境学習を実施していた地元小学校など、環境保全活動のポテンシャルを既に持っていた団体を取り込んだスタートを切ることで、継続した活動に繋がっている。

○団体の概要は？

- ・平成19年度に設立され、活動エリアは山口県山口市阿東嘉年地区(旧嘉年村辺り)としている。
- ・任意団体であり、人数は約380名。
- ・年間運営費は補助金が100%となっている。
- ・年間活動日数は、約110日である。

